

2022度 予算のお知らせ



大和太郎さん：今日は、僕たちの健康保険組合の予算を紹介しよう。



大和花子さん：予算って、どのようにお金を使うかって計画なんでしょ？



太郎：その通り。健保組合が翌年度どういう活動を行うかを考えて、必要な費用を見積もっておくことなんだ。ただし法律や厚生労働省の指導により必須の活動や出費項目が多いので、自由度はそれほど高くないんだ。



花子：今年はどんな特徴があるの？



太郎：まず重要な変更が行われた。**保険料率の引き上げ**だ。保険料は健保組合の収入のほぼ全てを賄う重要な項目だから、保険料率の引き上げは予算にも大きな影響を与えるよ。

■2022年度 保険料率8.5%
2021年度7.5%から1.0%引き上げ

	保険料率
事業主(会社)	5.50%
被保険者(社員)	3.00%
被保険者(任継・特退)	8.50%



花子：こないだ教えてくれた「健保組合の財政難」の話、私たちの健保も無関係ではなかったのね。



太郎：このまま行くと、僕たちの健保組合も近い将来財政がひっ迫し、運営が立ち行かなくなることが予想されたので、今年から引き上げに踏み切ったそうだ。



花子：でもこれで安心なんだよね？



太郎：これで当面は健保財政の安定化を図れたようだね。財政が不安定になると、必ず被保険者によくない影響が及ぶから、今後も継続して状況の変化には注意を払う必要はあるよ。



花子：他にはどんな特徴がある？



太郎：支出の方ではまず「**保険給付費**」。僕たちが通院した時、かかった医療費の7割を健保が負担してくれる。この医療費は年々増加傾向にあるけど、今年もそれを想定して増額されている。足らなくなることがないように、ということだね。



花子：こないだ教わった「**高齢者医療納付金**」の予算は、逆にずいぶん減ったんだね。「毎年増え続ける」って言ってなかった？



太郎：一昨年、新型コロナの急速な拡大に伴って、大勢のご高齢の方が通院を控えたようなんだ。今年の納付金は一昨年の清算分も含まれるので、予想外に少なくて済んだという特殊事情があるらしい。ただどうやら通院控えは一時的な現象だったようで、来年度の納付金からはまた以前の増加ペースに戻る事がほぼ確実らしい。



花子：そうなんだ。でも、結局いつかは私たちもこの制度のお世話になるんだから、協力できることはしていかないとね。



太郎：そして「**保健事業費**」だけど、今年は「歯科健診費用補助」という新しい制度が設けられるので、その予算も見込んであるそうだ。(17ページ参照)



花子：なるほど。よく分かったわ。



太郎：健保組合は、僕たちが健康に大和ライフを送れるよう、集めた保険料をどのように有効活用するか、日々考えているそうだよ。僕たちも、自分の健康管理に十分注意して医療費を抑えれば、健保組合の安定的な運営を支えることが出来るんだ。



花子：それには太郎さんも、少しお酒を控えた方がいいかもね！



太郎：いやいや、お酒は「百薬の長」と言ってね。。。 (以下省略！)

■2022年度 予算(一般勘定)

※()内の前年度比は2021年度予算との比較

予算総額 10,312百万円

経常収入
9,511百万円

健康保険収入 9,410百万円
(+1,234)

その他
101百万円

経常支出
9,355百万円

保険給付費 4,302百万円
(+154)

納付金 3,863百万円
(▲365)

事務所費
156百万円

その他
5百万円

経常収支 156百万円

保健事業費 1,029百万円(+14)

(健康保険組合 前田)